



合唱交歓会 ～ テーマは「響 ～ 心に届く歌声を～」



12月11日(月), 合唱交歓会をういすホールで行いました。鑑賞してくださいました125名の保護者の皆様、ありがとうございました。

この合唱交歓会は、伝統である合唱を受け継いでいくために、歌声委員が呼びかけ、企画・運営をしました。そして、当日は「響 ～ 心に届く歌声を～」のテーマの下、生徒たちのすばらしいハーモニーでういすホールは合唱の花が咲き、また寒さを吹き飛ばす暖かい雰囲気醸し出していました。

講師及び指導をしてくださいました白戸和子先生、長い間ありがとうございました。



各種入賞者

教育祭 図工美術大会 県特選
南都留支部特選

石井美妃 尾形拓夢 日向遼羽
志村陽葵 柏木萌花 川邊瑛怜那 田代真菜 程原大翔
渡邊賢成 小尾琉輝音 亀田幸来 尾曲奏音 水越摂奈
飯沼未羽 柳樂泰智 渡邊和真 横田三奈 小林もも

税金弁論大会 優秀賞

萱沼萌香

夏休みの友読書感想文 優秀賞

飯沼未羽

佳作 宮下勇斗 乙顔鈴由 荻窪沙季 下川溜斗 遠山雄大 齋藤ひな

私の好きな一冊 今月号は4人の先生方です。

「縞模様のパジャマの少年」 著:ジョン・ポイン 訳:千葉茂樹

ホロコーストの悲劇を、無垢な少年を題材にして描いた物語です。主人公であるブルーノは軍人である父親の仕事の都合でベルリンから遠く見知らぬ土地へ引っ越してきたが、一人退屈な日々を過ごしていました。その後、家から少し離れた場所に農場のような施設を発見します。大人の目を盗んでその施設へ行くと、そこには縞模様のパジャマを着た少年、シュムエルが地面に座っていました。つまらない生活に退屈を感じていたブルーノと強制収容所で寂しい思いをしていたシュムエルに友情が芽生えます。ある日、軍人の父親がユダヤ人に対して残虐な行為をしているのを見かねたブルーノの母は、引っ越しを決意します。ブルーノは引っ越しの当日、シュムエルの父を探すが、シュムエルのいる強制収容所にシュムエルと同じ縞模様のパジャマを着て紛れ込みます。何も知らない家族はいなくなったブルーノを懸命に探すのだが…。

この内容はフィクションですが、実際にあったことを何も知らない子ども目線で描いており、どんどん読み進めることができます。(文責:奥秋賢一先生)

「チェンジング」 吉富多美著

母親を亡くし、クラスでいじめを受けている森河大夢は、ファンタジー小説を読むことだけを楽しみに、その想像の世界に身を置く事で自分を守っていた。ところが、偶然に知り合った料理の先生、香奈子に料理を教わるうちに、大夢は様々な「味」があることを学んでいく。いじめる側のトオル、新たないじめのターゲットの勇人、ひとり立ち向かおうとする優菜、そして笑顔を見せなくなった父、それぞれの「味」…。くり返りくり返しアクを取り、手間をかけ、ひとつのスープができあがっていくように、やがてすべての「味」が変化して、自分という名の料理を作り上げていく。想像ではなく現実に立ち向かう勇気を得て成長していく物語です。

自分なんて…。どうせ人は変わらないよ。と思っている人に、おすすめの本です！

自分が変わろうとする気持ち、自分が変われば周りも変わっていく、それがわかるお話です。字も大きいので、ぜひ読んでみてくださいね。(図書室にもあります！) (文責:渡邊文香先生)

「嫌われる勇気」 岸見一郎・古賀史健著

「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである。」

「どうすれば人は幸せに生きることができるのか。」その哲学的問いに、シンプルかつ具体的に答えていきます。

この本は、対人関係や、人生に悩む人におすすめの本です。フロイト、ユングと並ぶ心理学者、アルフレッド・アドラーの考え方を「青年」と「哲人」のいう2人の対話で進めていきます。また、最近ドラマ化され、香里奈さんや加藤シゲアキさんなどが出演しています。心理学というと難しく感じるかもしれませんが、アドラーの心理学は、分かりやすく、実にシンプルで受け入れやすいと思います。

周りからどのように思われるかは、自分にはコントロールできないことです。だからこそ、他の人から嫌われることを恐れない「嫌われる勇気」を持ちえたとき、人は初めて自分だけの人生を歩み始めることができるのだと、アドラーは説いています。

180万部の大ヒットを記録した『嫌われる勇気』に続き、『幸せになる勇気』という続編も出ています。ぜひ、興味があれば読んでみてください。(文責:渡邊真五先生)

「深夜特急1～6」 沢木耕太郎著

猿岩石を知っていますか？テレビ番組『進め!電波少年』の企画にだまされた有吉弘行さんと森脇和成さんのコンビです。ユーラシア大陸をヒッチハイクで横断することで人気が出たお笑いコンビでした。今は解散していますが、有吉さんはご存知の通り現在もテレビで人気のタレントさんです。

このTV企画の元ネタとなった本、沢木耕太郎著の『深夜特急』を紹介します。旅人の聖書として今なお読み続けられていると信じています。この本は、インドのデリーから、イギリスのロンドンまでを、バス(特に路線バス、高速バスなどの乗り合いバス)だけを使って一人旅をするという目的で日本を飛び出した主人公「私」の物語であり、かなりの部分を筆者自身の旅行体験に基づいて書かれています。

私自身も紀行文を読み漁った時期が中学生のときで、その想いのまま高校へ進みいざインドへ行かなければ！と妙な使命感を持ち続け…現在もまだ迷走旅の途中です。

読み進めればアジアの雑踏とした寝苦しい熱帯夜、インドの香辛料と生ゴミ、牛の糞が混じった路地裏、トルコのボスポラス・ダーダネルス海峡から飛んでイスタンブールへ…憧れの欧州へ…旅に出たくなる一冊。オススメです。(文責:天野信彦先生)